

36 インド アンバラ送電システム 建設事業(1)(2)

安定的な電力供給により
産業振興に寄与

承諾額／実行額	313億3,800万円／255億8,800万円
借款契約調印	1991年6月、1996年1月
借款契約条件	金利2.3～2.5%、返済30年(うち据置10年)、部分アンタイト(1)／一般アンタイト(2)
貸付完了	1999年1月、2001年3月
実施機関	ウツタル・プラデシュ州電力公社 URL: http://www.uppcl.org

本事業の目的

ウツタル・プラデシュ州(UP州)において、同州南東部のアンバラ火力発電所で発電された電力を、主要需要地である同州中西部に効率的かつ安定的に供給するために、高压送変電設備を建設することにより、事業対象地域の電力需要増への対応を図り、産業振興および雇用機会の増加に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価a

本事業において敷設された送電網によりアンバラ火力発電所から3,700MWhの電力(2004年度)を送電したことが確認されており、これはUP州全電力供給量の8.4%に相当する。また設備稼働率実績は99%(2005年度)、送電損失率は、2%以下であり、事業対象施設の運営状況は良好であると判断される。同州の電力不足問題は深刻であるものの、本事業では最新鋭の停電事故防止設備が設置されたこともあり、運転開始後、地域送電網全体にわたる大規模な停電事故は発生しておらず、本事業は電力供給の安定性・信頼性の向上に貢献したと評価される。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。審査時では、第7次5カ年計画、事後評価時では第10次5カ年計画において、

電力部門は経済開発の主要手段の一つとして位置づけられており、本事業実施の優先度は高い。

事業実施の経済性(効率性) 評価b

本事業は、事業費が計画を下回ったものの(計画比88%程度)、期間については計画を大幅に上回ったため(計画比166%程度)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の主な要因としては許認可取得、コンサルタント選定、入札手続、用地取得等に時間を要したことが挙げられる。

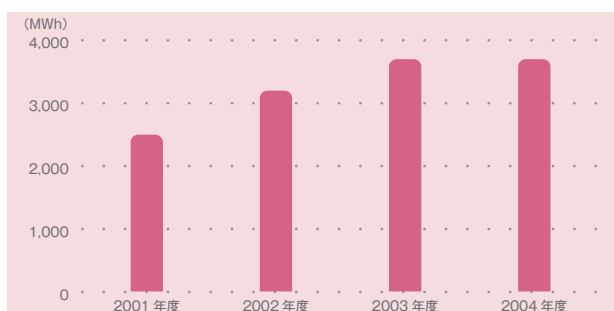
今後の展望(持続性) 評価b

本事業は、実施機関の非熟練職員を中心として職員数が過剰であり、また、財務面に若干の懸念があるものの、持続性は概ね問題ないと評価される。事業対象地域施設の維持管理状況については、99%という高い稼働率が確保されており、良好である。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。教訓としては、本事業のように発電・送電施設建設事業を一つの事業内にて実施する場合、事業効果の発現を最大化させるべく、それぞれの事業完成時期に開きが出ないよう、事業監理を行っていく必要があること等が挙げられる。UP州においては、別事業であるアンバラC発電所建設事業の早期完成により、事後評価時に確認されている電力不足の問題解消を図ることが望まれる。

アンバラ～ウーナオ間の送電量実績



開発途上国専門家の意見

発電および送電設備を並行的に整備することは通常困難であるが、本事業は概ね問題なく実施された。今後アンバラC発電所の完成により、地域経済に与えるインパクトはさらに大きくなることが期待される。

専門家の氏名:

Mr. Sankaran Kartha Narayanan Nair (コンサルタント)
インドマドラス大学学士。現在、インド応用経済研究評議会顧問。
専門はインフラ整備政策、電力、運輸(鉄道)、通信等。